

博物館のファンドレイジングと 長く応援してもらえる博物館になるには

日本ファンドレイジング協会代表理事

鵜尾雅隆



日本ファンドレイジング協会

寄附・社会的な投資が進む社会を実現するため、認定ファンドレイザー資格制度等のファンドレイザーの育成、寄附教育、遺贈寄付推進などに取り組む。

組織横断的なファンドレイザーの日本最大のネットワークでアートチャプター、大学チャプターなど分野別のつながりもある。大学分野の認証ファンドレイザー研修を2022年4月から開始

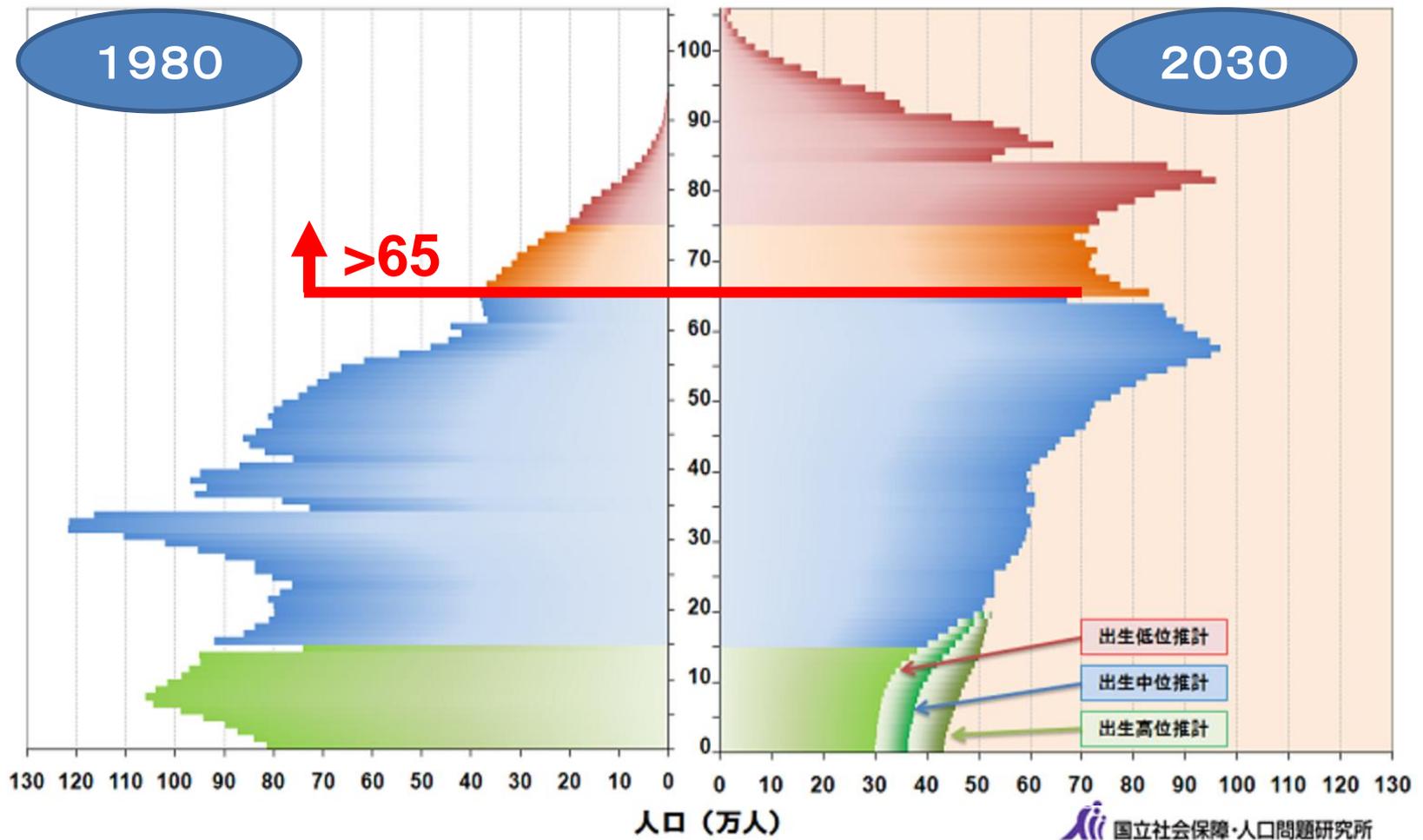


鵜尾雅隆 (UO MASATAKA)

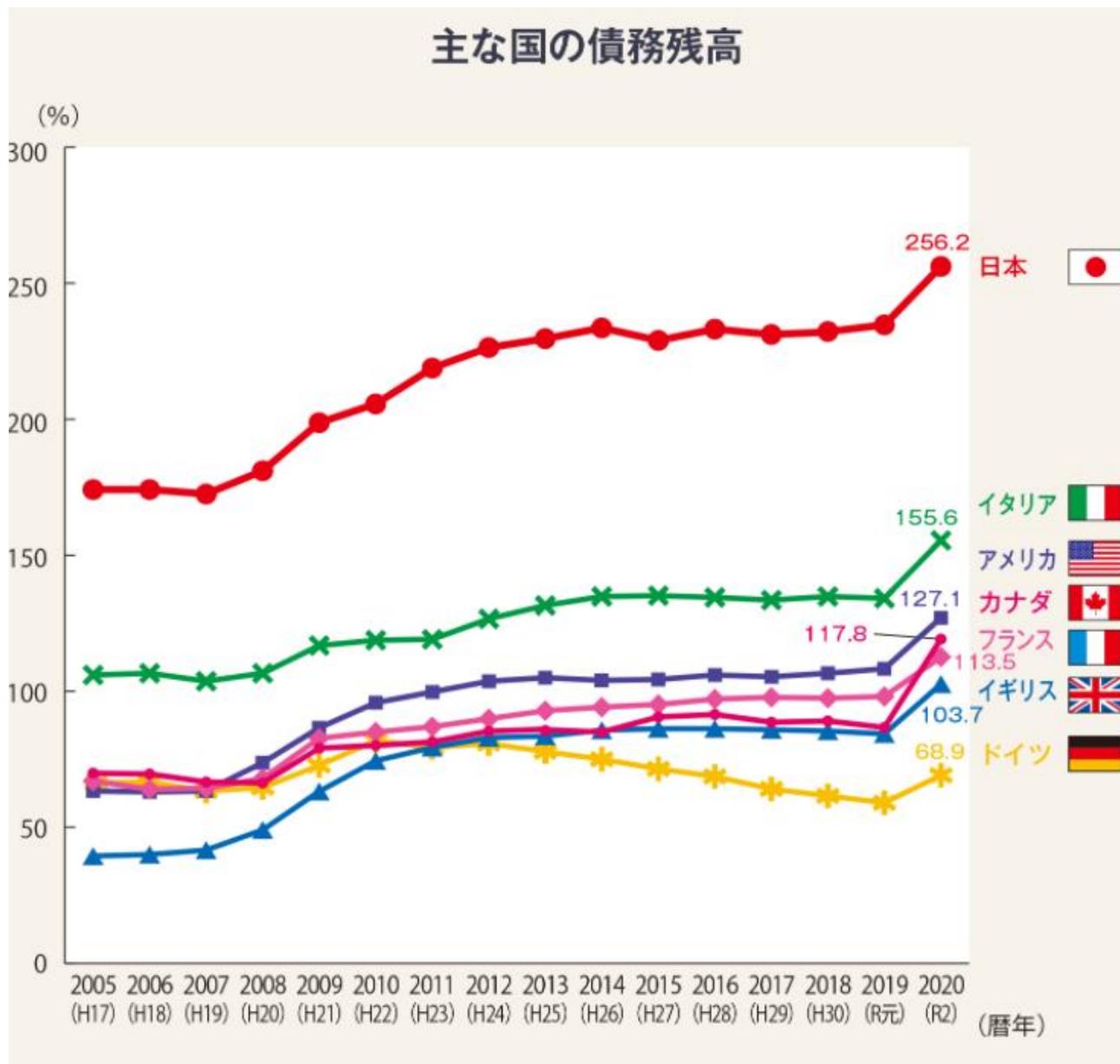
JICA、外務省、米国NPOを経て日本ファンドレイジング協会創設・代表理事。至善館大学院特任教授・評議員、民間公益活動連携機構 (JANPIA) 理事、PwC財団選考委員長なども務める。

「寄付しようと思ったら読む本」(日経新聞)、「ファンドレイジングは社会を変える」(三一書房)、Global Fundraising (Wiley) など

少子高齢化、世界最速。



財政赤字人類未体験ゾーンへ



子どもの貧困

ホームレス

差別

障がい者支援

限界集落

いじめ

病児保育

DV

ハラスメント

感染症

不登校

うつ

産後うつ

人権問題

医療費高騰

LGBT

低い自己肯定感

地域経済の地盤沈下

介護難民

ひきこもり

難民

飢餓

孤独死

気候変動

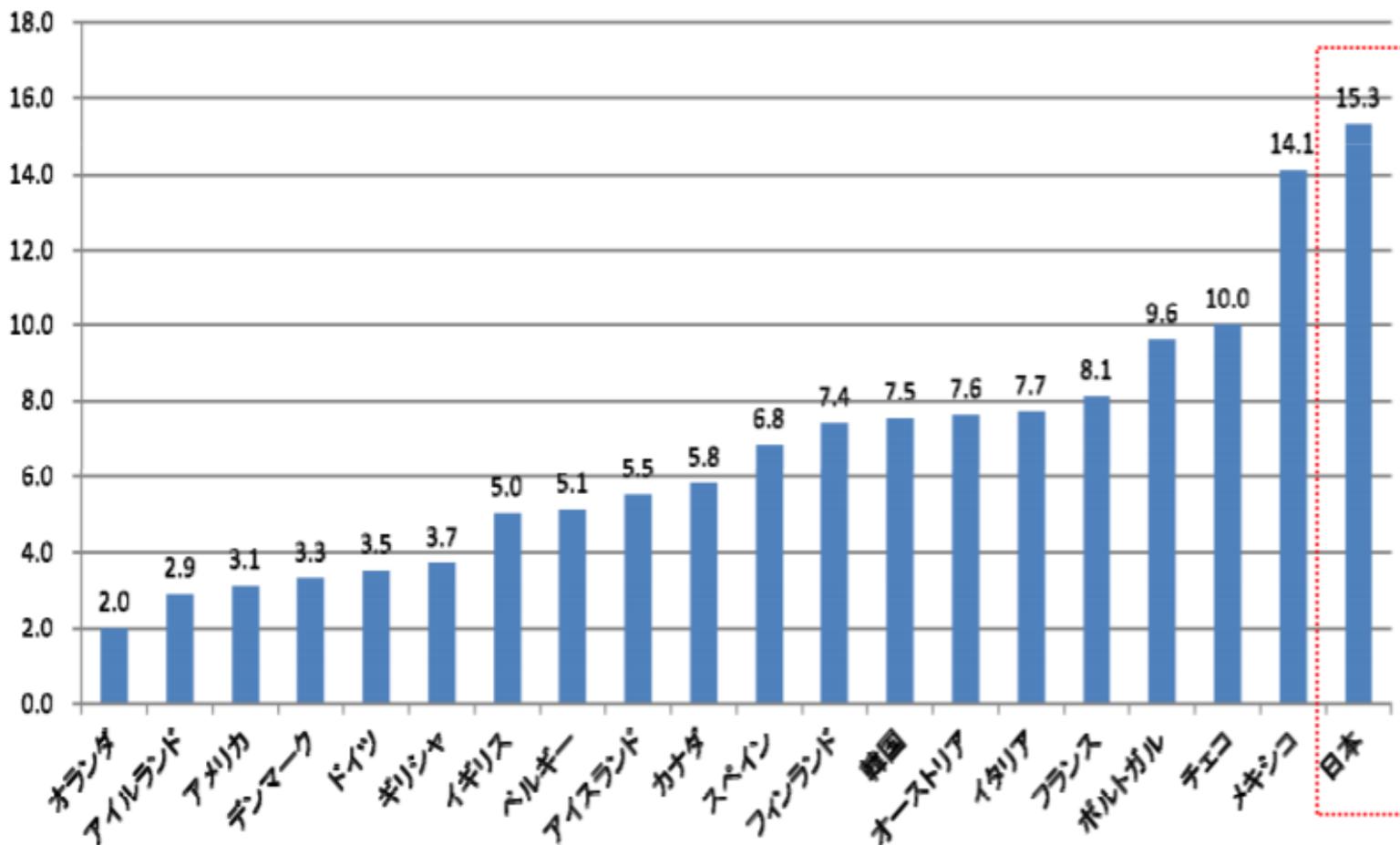
紛争

カーボンニュートラル

日本の孤独率はOECD加盟20力国中最も高い

「友人、同僚、その他の人」との交流が「全くない」あるいは「ほとんどない」と回答した人15.3%

経済協力開発機構(OECD)の孤立率比較



課題先進国日本

課題**解決**先進国日本

社会イノベーションとお金、というテーマに
誰かが真正面から向き合ったほうが
いいんじゃないの？



**大学、福祉、研究、文化芸術、
医療の分野で民間資金が動き
はじめている**

総額比較



2020年

1兆2,126億円



0.23%
名目GDP比



2020年

34兆5,948億円

現地通貨額: 3,241億ドル



1.55%
名目GDP比



2018年

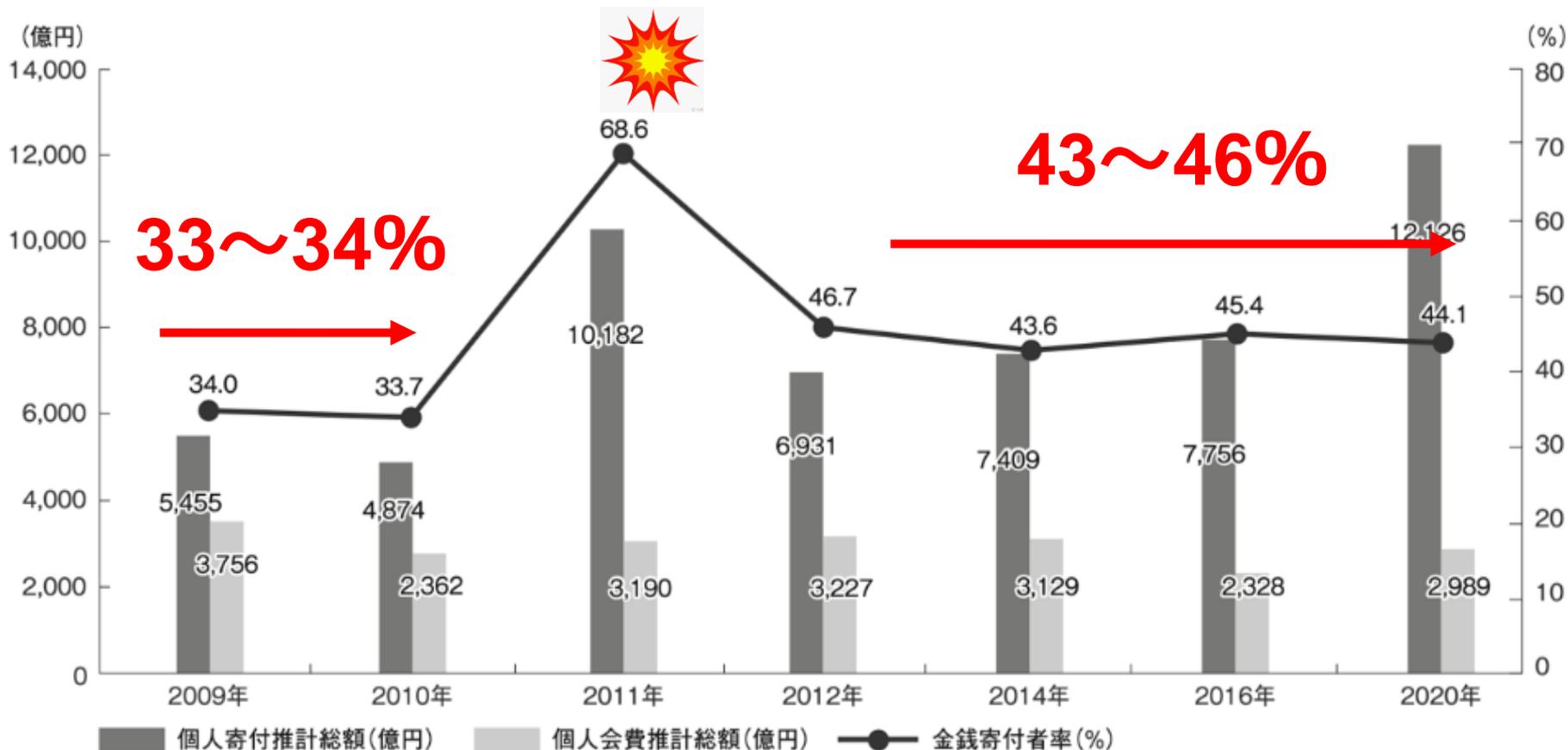
1兆4,878億円

現地通貨額: 101億ポンド



0.47%
名目GDP比

図1-5 個人寄付推計総額・個人会費推計総額・金銭寄付者率の推移



注：2011年は震災関係の寄付(5,000億円)を含み、金銭寄付者率も震災関係以外の寄付者率(29.4%)を含む。
2012年以降、本調査は隔年実施、また2016年以降は4年に一度実施へと変更になった。

遺贈寄付が急速に増加

年間相続額は **37兆円～63兆円**

将来、亡くなるときに資産があれば
相続の一部を寄付してもいい **43%**

 いぞう寄付の窓口

遺贈寄付を
検討している方へ

専門家の方へ



**「人生の集大成の社会貢献」
をサポート**

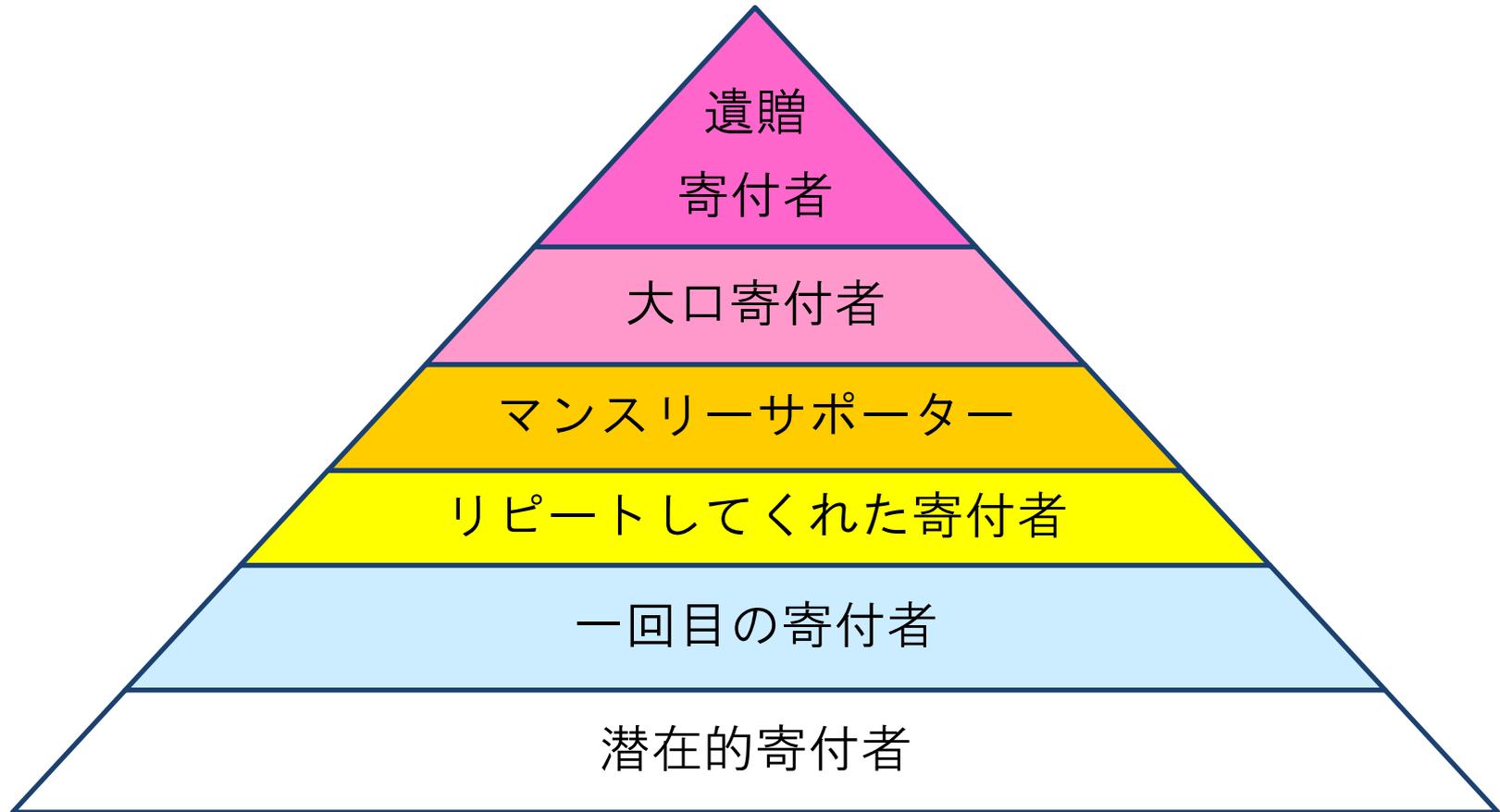
いぞうの窓口は、遺贈寄付をお考えのみなさまと、
無料で相談できる全国の窓口をつなぐポータルサイトです。

ボランティアとは、誰かのために
自分の時間や知恵を使う行為

寄付とは、

信じて、託す行為

支援者との関係性を育てる(ドナーピラミッド)



ファンドレイジングとは、何か？

共感 × 解決策 = 社会を変えろ

ファンドレイジングの共感事例

READYFOR?

YAHOO!
JAPAN

みんなの力で応援しよう!
日本アスリート応援プロジェクト

陸前高田市の空っぼの図書室を本でいっぱいにしてプロジェクト

+このプロジェクトをウォッチする

ホーム

新着情報 59

応援コメント一覧 862



図書館の復興支援寄付

1万円の寄付に設定された「お返し」とは・・・?

ファンドレイジングの共感事例



熊本城修復のための寄付。
震災前の時点で20億円近い寄付が
集まっていた

التقمص العاطفي

сопереживание

공감

Empathy

共 感

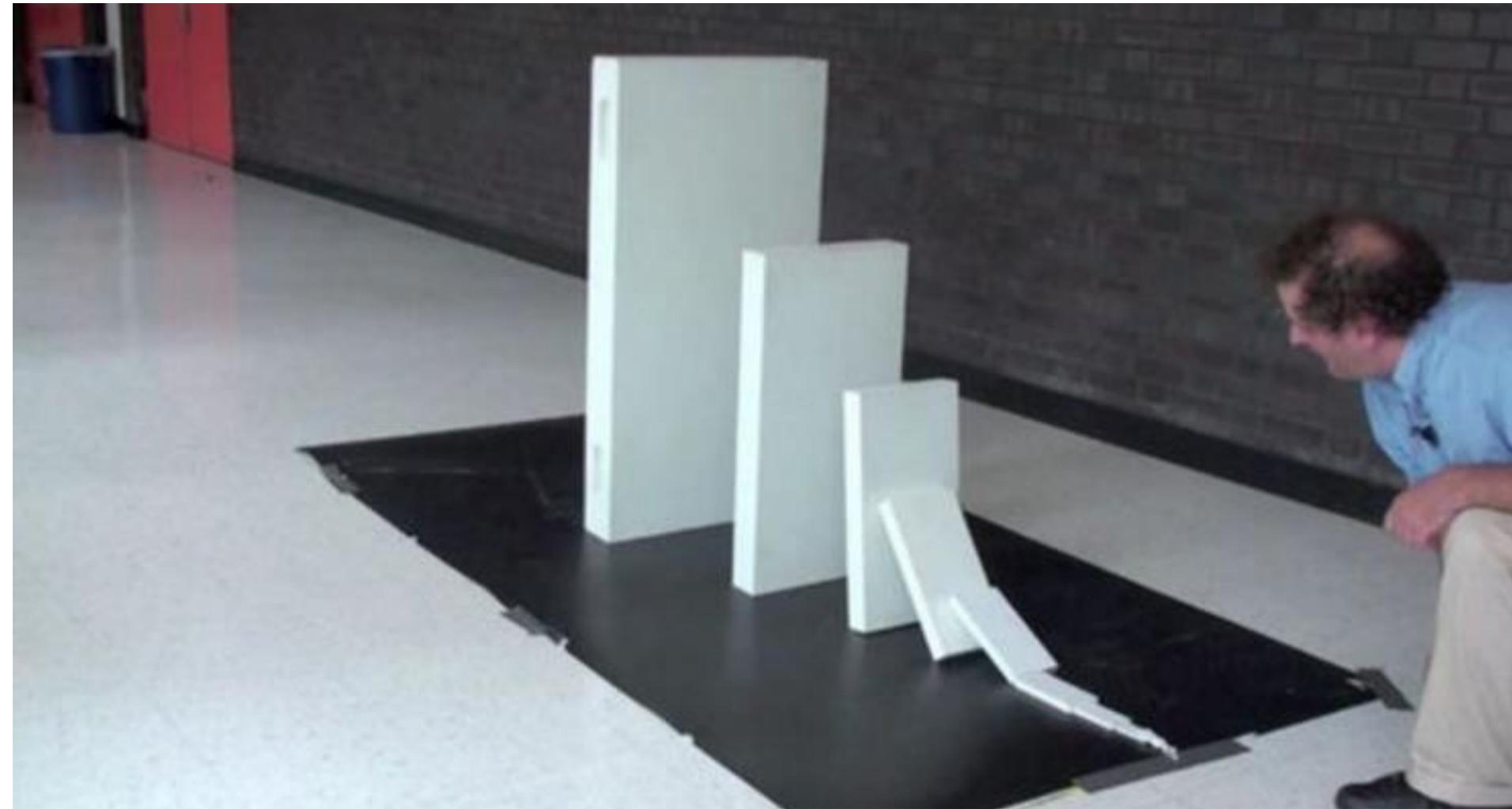
การเอาใจใส่

Empathie

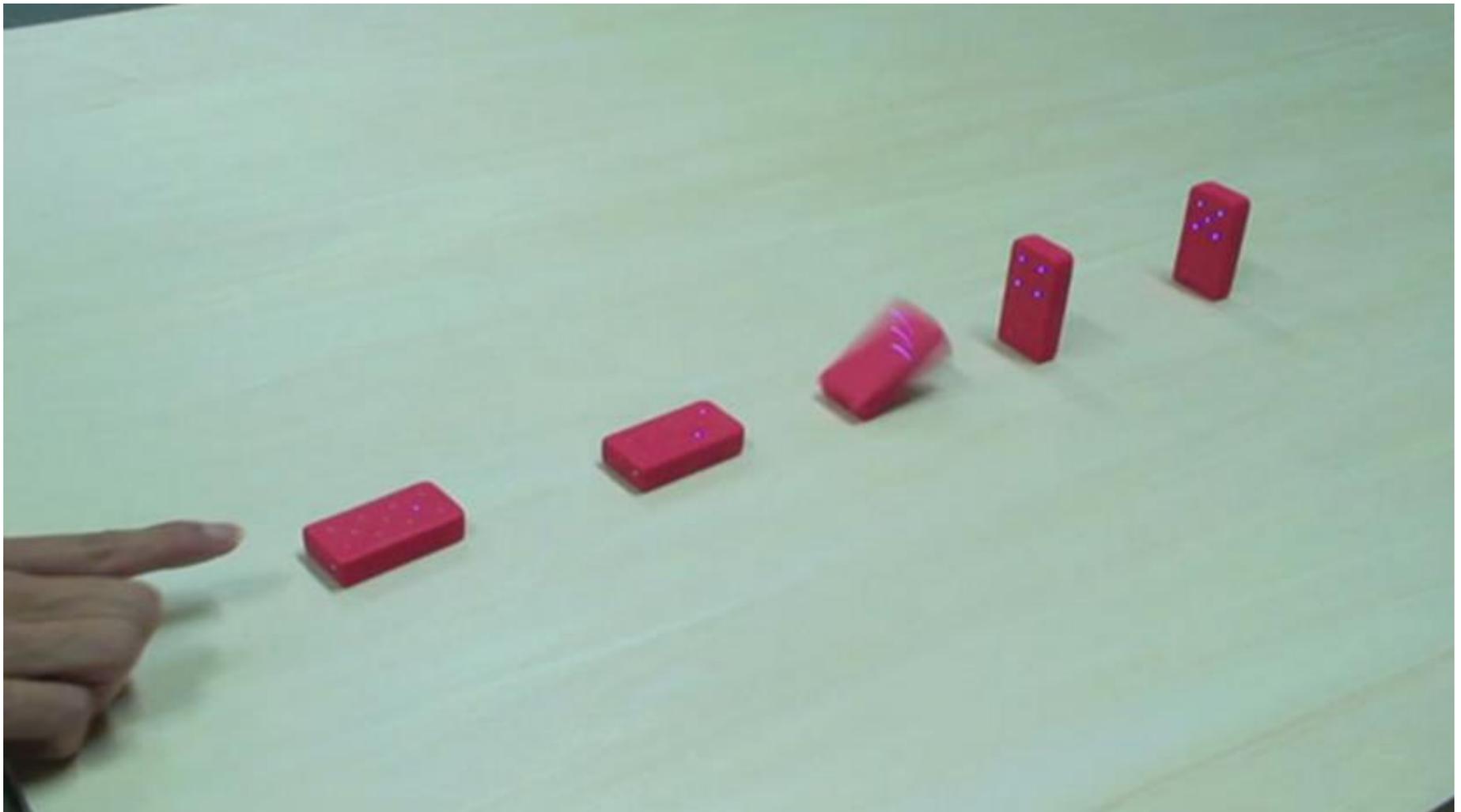




今の社会を変えるということ



「共感」の持つ意味



幸福の4要素とは何か

やりたいことがあること

つながりがあり、誰かのためになる
(感謝される)こと

ありのままがいい、と思えること

なんとかなる、と思えること

博物館の「共感型経営」にむけて

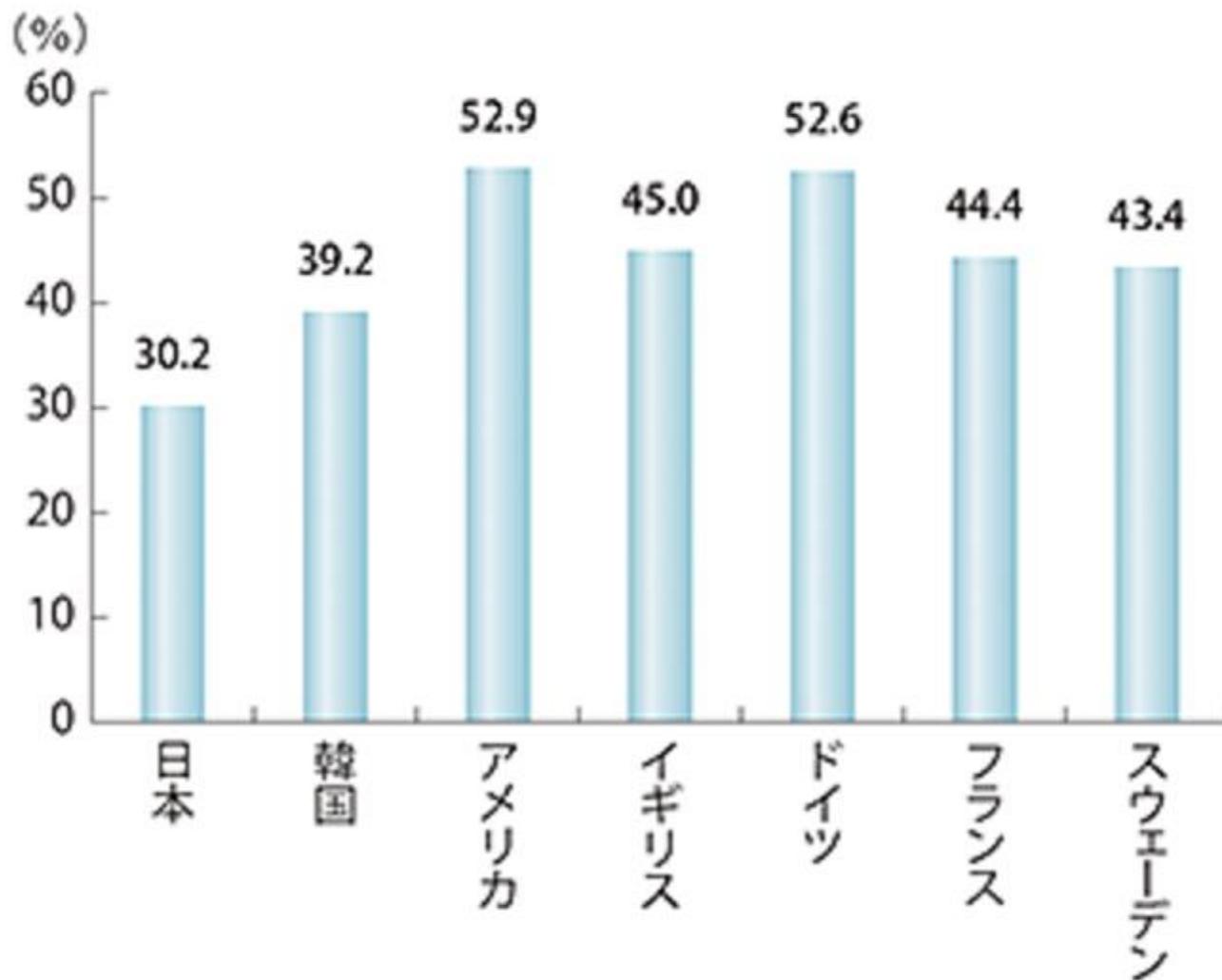
「私たちの夢」を「みんなの夢」にする共創的発想

地域社会にとっての「つながりと感謝」の空間

博物館の創出価値を「枠を超えて」発想する

図表7

社会現象が変えられるかもしれない



我が国と諸外国の若者の意識に関する調査(平成25年度・内閣府)

2022年、一段階進化するために

令和4年度・博物館機能強化推進事業

（経営基盤強化に向けた組織改革の促進に関する実証事業）

■事業内容

個人・法人を対象として広く集める寄付や遺贈等の
博物館の経営に資する資源の調達（CF、現物寄付、ふるさと納税等）事業
（※博物館向け研修＋実証事業（公立、私立館における実証事業））

※寄付や賛助金等の金銭的資源のほか、現物提供や現物寄付、
友の会やメンバーシップを母体とするボランティアや運営支援・
参画など、博物館を設置する者以外のものから提供される資金、
物資、労働などの、博物館の経常運営の一助となるリソース。

■研修会兼事業説明会（7月下旬～8月上旬）

基礎編、応用編でのファンドレイジング研修（別途正式ご案内）

【参考】

大学・研究機関の未来を寄付で発展させるための

戦略ロードマップ

～世代を超えて 変わらないものを伝えるために～

Ver.0.1

2022年2月15日

ロードマップ全文

<https://jfra.jp/news/39683>

専門認証ファンドレイザー研修(大学)

<https://jfra.jp/news/41107>

2. 戦略ロードマップ (1/2)



UFReR 職の確立

2. 戦略ロードマップ (2/2)

カテゴリ	テーマ	2022年度～2026年度	2027年度以降	目標
機関間の連携・ 情報共有	A. 大学・研究機関の連携推進&ロードマップ実行部隊の設立	A①連携の必要性、連携組織で行うことの機運を醸成する A②FR推進コンソーシアムをつくる（法人・ファンドレイザーそれぞれの連携組織） A③国公立大、研究独法各団体（国大協等）と対話を開始する A④国内外の好事例や現状の共有を進めるための情報プラットフォームを作る A⑤ 国への各種提言を行う	UFRer 職の確立	ロードマップに沿って歩む ・複数の機関が繋がることで、FRの意識がさらに向上する ・大学ファンドレイザーが専門職として定着する
行政（国）	B. 寄附しやすい・寄附を受けやすい仕組みづくり	B①国の予算措置を前提にコンソーシアム設立を検討する B②UFRer職の検討を開始する B③UFRerのスキル標準を策定し、認定制度を設ける B④UFRer職を構築・導入する B④専任FRer雇用の支援制度を作る B⑤税制を見直し、大学・研究機関への寄附を推進する B⑥会計基準を見直し、大学・研究機関への寄附を見える化する B⑦寄附に関する政策研究・学術研究を推進する		・UFRer制度ができる ・大学・研究機関のFRerの人数が増加する ・寄附活動がやりやすくなる ・寄附政策研究・フィランソロピーの学術的研究に取り組む機関・研究者が増える
NPO・地域社会・ 地方自治体	C. 組織間の繋がり の強化	C①類似するミッションの実現を模索するネットワークを構築する C②地域と大学・研究機関が一体となって社会課題の解決を具現化する C③ふるさと納税の項目に、大学・研究機関への寄附を加える		・大学・研究機関との対話が進み、協働が生まれる
企業・財団	D. CSR/CSVに 大学・研究機関が 参加	D①寄附講座に加え純粋な寄附のインパクトに注目が集まる D②マッチング寄附を実施する企業が増える D③大学・研究機関との共創によりインパクト投資が加速する		・大学・研究機関への寄附が企業活動として一般的になる
JFRA他育成機関	E. UFRerの育成	E①専門課程の開設・充実により、大学ファンドレイザーの専門性向上を図る		・大学ファンドレイザーの育成が進む
全体・ 社会情勢の変化	F. 大学・研究機関の寄附文化の醸成	F①大学ファンド制度導入により研究力が強化される F②地方大学への「総合振興パッケージ」で研究力が強化される F③地域における大学の存在感が増す F④母校や特定の研究に寄附できる認識が広まる F⑤寄附先として教育研究機関の定着が進むインパクトへの注目が高まる F⑥学術クラウドファンディングが増加する F⑦学術研究がSDGsの実現に貢献・注目される F⑧社会貢献人材の育成に対する要求が高まる F⑨企業からの寄附が増える F⑩現金以外の金融資産（株など）による寄附が増える F⑪遺贈寄附の申込が増える		・大学・研究機関への寄附がもたらす社会的インパクトを理解する人が増える ・大学・研究機関が寄附文化醸成を牽引する

研修体系



分野に特化したファンドレイザーを認証する
専門ファンドレイザー認証制度
大学分野ファンドレイジング専門コース [基礎]



2022.5.14[sat] 13:00-17:00 

本研修は、大学におけるファンドレイザーの役割を理解し、実践的な知識を身につける研修として、ファンドレイジングの計画策定や周年事業の具体的な方法を学びます。

時間	研修内容
13:00-17:00	<p>理論編</p> <ol style="list-style-type: none">1. 大学と寄附2. 組織3. 事業4. 財源（広報・渉外・管理・その他国際関係等）5. 総括 <hr/> <p>実践編</p> <p>ファンドレイジング7つのステップの応用</p> <ol style="list-style-type: none">1. 年間計画2. 周年事業